

入学試験問題の講評 国語（前期日程）

●出題のねらいと傾向

国語問題は、現代文と古文の2題で構成されています。

現代文は、4000字～5000字程度の評論・論説文を題材として、漢字力、語彙力、読解力を問う問題です。題材の内容は、文化論から哲学的エッセイまで多岐にわたります。漢字の書き取りは今年度は選択肢問題でした。正確に漢字を認識し、判別する力が問われています。記述問題は漢字の読み、抜出しの他、文の一部を補充して説明を完成させる問題があります。漢字の読みでは、正確な表記とともに語彙力も問われています。抜出し問題や、文の一部を補充して説明を完成させる問題では、キーワードに注目しながら、全体の主旨や論理の展開が理解できているかどうか問われます。選択肢問題では、文脈を読み取れているかどうか、工夫された言い回しの意味が理解できているかどうかなどが問われています。

古文は、様々な時代から、説話、物語、歌学書などジャンルも多岐にわたって、出題されます。重要古語について理解し文脈に沿った現代語に直しているか、動詞や助動詞、敬語などについての文法的理解があるか、古文特有の表現が読解できているか、全体の内容が読み取れているかなどを見る設問があります。記述は、古語の読みや、現代語訳、文法事項に関する問題などがあります。高等学校までで学ぶ古文の基礎が身についているかどうかを見るのが出題のねらいです。

現代文と古文の配点は、おおむね6対4の比率になっています。

●解答内容について

現代文の漢字の書き取りでは、「深奥」、「結託」など、字そのものは簡単でも日常生活であまり使用しないものや、選択肢のなかで同音異義語の判別が必要なものの正答率が低くなっています。漢字の読みでは、「舞踊」、「定石」などがあまり出来ていませんでした。

記述問題の抜出しでは、正解率の低い問題もあり、大きく差が出ました。理解出来ているのに誤字脱字をしている場合も多く、丁寧に書き写す注意が必要です。傍線部からかなり離れたところから抜き出すこともあります。論の主旨全体を理解し、論理の展開、前後関係を把握しつつ、一文、一語を正しく捉える必要があります。また、漢字を組み合わせる空白部に入る適切な四字熟語を作る記述問題では、語彙力と文脈の理解の両方が必要です。

内容を深く問う選択肢問題では、正答率が低いものがあります。正答を導くためには、各設問の相互の関わりに留意し、設問の趣旨をしっかりと理解することが大切です。

古文では、「あだなる」、「あなづりける」など、現代語に改める問題の正答率が低い傾向が見られます。また全体的にみて、文法問題もあまり出来ていないようです。

また、全体の読解では、場面の状況把握、登場人物たちの関係や心理についての理解が不十分で、正答できていない事例がみられました。

基礎的な古文の知識をしっかりと理解しながら、様々な時代・ジャンルの文章に慣れていくことが重要です。

●アドバイス

現代文について

1. 普段から論説的文章に親しんで、論述の展開のパターンに慣れておくことが必要です。キーワードに印をつけながら、論全体の構造を意識して読むといいでしょう。

2. 自分の言葉で的確な説明が出来るよう、日頃から語彙力を向上させ、正しい文章が書けるように心がけておくことが重要です。よく分からない言葉は、辞書で確認しましょう。

3. 実践的には、標準的な問題集を解くことが有効でしょう。その場合、設問や選択肢の文章そのものが、読解のためのヒントを示してくれているという見方も大切です。

4. 漢字については、書いて練習することが大切です。読書を重ね、語彙力を向上させましょう。同音異義語の使い分けなども確認しましょう。

古文について

1. 基礎事項が不十分な場合は、基礎から勉強をやり直しましょう。基礎事項とは、古語の基本知識と、古典文法の理解です。また、国語便覧などで古文の文化的背景を把握しておくことも役に立ちます。

2. 基礎事項の理解を高めるには、標準的な問題集を解いて自分の弱点を認識し、それを補う勉強をすると有効でしょう。

3. 文法はしっかりと学ぶと文法問題が解けるだけでなく、内容を読み解く力も高まります。日頃の勉強に加え、休暇中など時間のあるときに集中的に取り組むとよいでしょう。

現代文、古文ともに難問、奇問は出ないので、基礎的な勉強を積み重ねて力をつけることが大切です。

配点

201 (200点)

1 120点 2 80点

202 (200点)

1 120点 2 80点

203 (200点)

1 120点 2 80点

204 (200点)

1 120点 2 80点

205 (200点)

1 120点 2 80点